

安全データシート

改訂日：2022年9月5日

1. 化学品及び会社情報
 化学品の名称(製品名)
 推奨用途
 会社名
 住所
 電話番号

n-アミルアルコール
 試験研究用
 米山薬品工業株式会社
 大阪市中央区道修町2丁目3番11号
 (06)6231-3555(大阪・本社)
 (03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)
 (052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
 01148

整理番号

2. 危険有害性の要約
 GHS分類
 物理化学的危険性
 健康に対する有害性

引火性液体：区分3
 皮膚腐食性及び皮膚刺激性：区分2
 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：区分2A
 特定標的臓器毒性：区分2(中枢神経系)
 (単回ばく露) 区分3(気道刺激性)
 水生環境有害性 短期(急性)：区分3

GHSラベル要素
 絵表示又はシンボル



注意喚起語
 危険有害性情報

警告
 引火性液体及び蒸気
 皮膚刺激
 強い眼刺激
 呼吸器への刺激のおそれ
 中枢神経系の障害のおそれ
 水生生物に有害

注意書き

【安全対策】
 熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。—
 禁煙
 容器を密閉しておくこと。
 容器を密閉すること。／アースをとること。
 防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。
 火花を発生させない工具を使用すること。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
 取扱い後は手などをよく洗うこと。
 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
 環境への放出を避けること。
 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
 【応急措置】
 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
 皮膚又は髪に付着した場合、直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこ
 と。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿で休息さ
 せること。
 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレ
 ンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を
 続けること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師の連絡をすること。
 気分が悪いときは医師に連絡すること。
 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断／手当を受けること。
 眼の刺激が続く場合、医師の診断／手当を受けること。
 汚染された衣類を全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
 火災の場合、消火するために適切な消火剤を使用すること。
 【保管】
 容器を密閉し、涼しく換気の良いところで保管すること。
 施錠して保管すること。
 【廃棄】
 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者
 に業務委託すること。

3. 組成、成分情報
 化学物質・混合物の区別
 化学名又は一般名
 別名
 化学式
 化学物質を特定できる一般的な番号

化学物質
 n-アミルアルコール
 1-ペンタノール
 $\text{CH}_3(\text{CH}_2)_3\text{CH}_2\text{OH}$
 CAS RN:71-41-0

濃度又は濃度範囲（含有率）	97%以上
官報公示整理番号（化審法/安衛法）	(2)-217/公表
その他	HSコード：2905.19
4. 応急措置	
吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。 皮膚を流水、シャワーで洗うこと。 多量の水と石鹸で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師に連絡すること。
眼に入った場合	汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合は、医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
予想される急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状	吸入： 咳、頭痛、吐き気、めまい、し眠 皮膚： 発赤 眼： 痛み、発赤、角膜損傷の可能性 経口摂取： 灼熱感、嘔吐、咳、頭痛、吐き気、めまい、し眠 非常に高濃度でばく露すると意識喪失することがある。
5. 火災時の措置	
適切な消火剤	アルコール耐性泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス
使ってはならない消火剤	棒状放水、水噴霧
特有の危険有害性	極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。 消火後再び発火するおそれがある。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 容器が熱に晒されているときは、移動しない。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。 適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。
消火を行う者の保護	
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項	全ての着火源を取り除く。
緊急時措置	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。
封じ込め及び浄化方法・機材	不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。 危険でなければ漏れを止める。 すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。
	排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策	吸い込んだり、目、皮膚および衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。 取扱いについては、局所排気装置または全体換気装置を使用する。
安全取扱い注意事項	消防法の規制に従う。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 皮膚と接触しないこと。 眼に入れないこと。 熱、酸化剤 取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
接触回避	
衛生対策	
保管	
適切な保管条件	消防法の規定に従う。 容器を密閉して冷乾所にて保存すること。 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から離して保管すること。一禁煙。 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。 施錠して保管すること。 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。
容器包装材料	
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度	
管理濃度	未設定
日本産業衛生学会	未設定
ACGIH	未設定
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 ばく露を防止するため、装置の密閉化又は局所排気装置を設置すること。

保護具		
呼吸器の保護具		呼吸器用保護具を着用すること。
手の保護具		保護手袋を着用すること。
眼の保護具		保護眼鏡、保護面、安全ゴーグルを着用すること。
皮膚及び身体の保護具		保護衣を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質		
物理状態		液体
色		無色澄明
臭い		特徴臭
融点・凝固点		-79°C
沸点又は初留点及び沸騰範囲		138°C
燃焼性		熱、火炎もしくはは強力な酸化剤に曝すと著しい可燃性を示す。火炎に曝すと中程度の爆発性を示す。
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界		1. 2~10% (25°C, 1atm)
引火点		33°C (C. C)
自然発火温度		300°C
分解温度		該当情報なし。
pH		該当情報なし。
粘度 (粘性率)		3. 31mPa・s (25°C)
溶解度		水 : 22g/L (25°C) アルコール、エーテル、有機溶媒に混和する。
n-オクタノール/水分配係数		logP = 1. 50
蒸気圧		2. 2mmHg (25°C)
密度及び/又は相対密度		0. 82
相対ガス密度		3 (空気=1)
10. 安定性及び反応性		
反応性、化学的安定性		法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性		酸化剤と激しく反応する。 多くのアルカリ、アルカリ土類金属を侵して、引火性/爆発性気体(水素)を生成する。 33°C以上では、蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。
避けるべき条件		加熱すると、破裂の危険を伴う圧力上昇が起こる。
混触危険物質		33°C以上、加熱
危険有害な分解生成物		酸化剤 水素
11. 有害性情報		
急性毒性	経口:	ラットのLD50値が2690 mg/kg、3030 mg/kg (PATTY (5th, 2001))より、分類JISの区分外 (国連分類基準の区分5) とした。
	経皮:	ウサギのLD50値が2000 mg/kg、4500 mg/kg (PATTY (5th, 2001))、あるいは >3200 mg/kg (PATTY (5th, 2001))より、分類JISの区分外 (国連分類基準の区分5) とした。
	吸入: (粉塵, ミスト)	ラットにエアロゾルで用量14 mg/L/6h [= 21 mg/L/4h] を投与して、10匹中2匹が暴露中に死亡したとの報告 (PATTY (5th, 2001))によりLC50値は > 14 mg/L/6h [= 21 mg/L/4h] であるため区分外とした。 ウサギに24時間閉塞適用して重度の刺激が見られたとの報告 (PATTY (5th, 2001))があり、EU分類ではXi; R37/38に分類されている (EU-Annex 1 (access on May 2009))ことから区分2とした。なお、この他に、ウサギに刺激性あり (IUCLID (2000))、あるいは、ウサギに4時間閉塞適用して刺激性なし (IUCLID (2000))との報告もある。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性		ウサギに適用して、結膜の紅斑と浮腫、虹彩炎、および角膜損傷が見られ、重度の刺激性であったとの報告 (PATTY (5th, 2001))、ウサギのドレイズ試験において重度な可逆的影響が見られた報告 (IUCLID (2000))、あるいは、ウサギに重篤な角膜損傷が見られ、刺激の程度は10段階中8であったとの報告 (IUCLID (2000))を勘案し、区分2Aとした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性		ウサギに適用して、結膜の紅斑と浮腫、虹彩炎、および角膜損傷が見られ、重度の刺激性であったとの報告 (PATTY (5th, 2001))、ウサギのドレイズ試験において重度な可逆的影響が見られた報告 (IUCLID (2000))、あるいは、ウサギに重篤な角膜損傷が見られ、刺激の程度は10段階中8であったとの報告 (IUCLID (2000))を勘案し、区分2Aとした。
呼吸器感受性又は皮膚感受性	呼吸器:	データなし。
	皮膚:	データなし。
生殖細胞変異原性		In vivoのデータがなく、分類できない。なお、in vitroではエームズ試験で陰性 (NTP DB (access on Aug. 2009))、ヒト白血球を用いた染色体異常試験で陰性 (IUCLID (2000))、V-79細胞を用いた異数性誘起を含む染色体異常試験で陽性 (IUCLID (2000))が報告されている。 データなし。
発がん性		妊娠中のラットに飽和蒸気を19日間反復吸入投与した試験で、発生毒性の証拠は無しとの報告 (PATTY (5th, 2001))があるが、親動物の性機能および生殖能に及ぼす影響に関しては、データがなく分類できない。
生殖毒性		ヒトの影響として興奮、難聴、複視、CNS抑制、痙攣の前兆等の神経毒性症状が報告 (HSDB (2006))されているが、リスト2の文献であることから区分2 (中枢神経系) とした。また蒸気は気道を刺激するとの記述があり (HSDB (2006))、EU分類ではXi; R37/38に分類されている (EU-Annex 1 (access on May. 2009))ことから区分3 (気道刺激性) とした。なお、マウスに吸入ばく露 (エアロゾル) で区分2のガイダンス値の上限を超えた用量ではあるが明らかに肺水腫が見られたとの報告 (PATTY (5th, 2001))もある。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)		ラットに最大用量1000 mg/kgを13週間、経口反復投与した試験で、摂餌量および摂水量、血液学的および血液生化学検査、尿検査、腎機能、臓器重量、あるいは組織病理検査結果に投与の影響はなかったとの報告 (PATTY (5th, 2001))により、経口投与では区分外に相当するが、他経路のデータがないので「分類できない」とした。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)		

誤えん有害性		動粘性率が4.1 mm ² /s (20°C) (Ullmanns (E) (2003)) より40°Cで14 mm ² /s以下と推定され、3以上13を超えない炭素原子で構成された一級のノルマルアルコールであることから、国連GHSの区分2に該当するが、区分2を用いないJIS準拠のガイダンス文書に従い分類できないとした。なお、ラットによる0.2 mLの吸引で10匹中10匹死亡とのデータ (PATTY (5th, 2001)) がある。
12. 環境影響情報		
生態毒性	短期 (急性): 長期 (慢性):	甲殻類 (ニセネコゼミジンコ) の48時間EC50 = 53 mg/L (AQUIRE, 2010) から、区分3とした。 急性毒性区分3であるが、急速分解性があり (BOD : 87、95、94%、TOC : 100、98、99、GC : 100、100、100% (既存点検, 2008))、かつ生物蓄積性が低いと推定される (log Kow = 1.51 (PHYSPROP Database, 2010)) ことから、区分外とした。
残留性・分解性		急速分解性がある (BOD : 87、95、94%、TOC : 100、98、99、GC : 100、100、100% (既存点検, 2008))
生体蓄積性		生物蓄積性が低いと推定される (log Kow = 1.51 (PHYSPROP Database, 2010))
土壤中の移動性		該当情報なし。
オゾン層への有害性		当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意		
残余廃棄物		産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。
14. 輸送上の注意		
国連番号		1105
品名 (国連輸送名)		PENTANOLS
国連分類		クラス3
容器等級		III
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策		食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 重量物を上積みしない。
国内規制がある場合の規制情報		
陸上輸送		消防法の規定に従う。
海上輸送		船舶安全法の規定に従う
航空輸送		航空法の規定に従う。
応急措置指針番号		129
15. 適用法令		
化学物質管理促進法 (PRTR法)		指定化学物質に該当しない。
毒物及び劇物取締法		毒物及び劇物に該当しない。
労働安全衛生法		名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 [1-ペンタノール] [施行令別表9] (2026年 (令和8年4月1日)以降) 危険性又は有害性を調査すべき物 [1-ペンタノール] (2026年 (令和8年4月1日)以降) 危険物・引火性のもの 第4類引火性液体第2石油類非水溶性液体 引火性液体類 引火性液体 有害液体物質 (Z類)
消防法		
船舶安全法		
航空法		
海洋汚染防止法		
16. その他の情報		
引用文献		NITE-CHRIP (製品評価技術基盤機構HP) 16615の化学商品 (化学工業日報社) 職場のあんぜんサイト (厚労省HP) 国際化学物質安全性カード (国立医薬品食品衛生研究所HP)
その他		記載内容のうち、含有量、物理/化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。